

# 日本レジャー・レクリエーション学会第26回学会大会

## テーマ「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究・教育への期待」

### 1. 趣旨

戦後50年が経過した今日のレジャー・レクリエーションの研究と教育は、当初の目的と今日の社会ニーズの間に少なからずギャップが生じてきているのではないだろうか。我が国の高齢化問題に対する取り組みは、どの分野でも行われているが、高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育のあり方の検討はまだ十分になされていないのではないかとと思われる。

人生80年時代における退職後の人生は時間に換算すると、ほぼ生涯労働時間に匹敵する。こうなると、高齢者の価値観、ライフスタイルは、誰にとっても大きな問題になる。この具体的対策についての「研究と教育」の検討は学会としても緊急な課題だと思われる。

こうした問題意識のもとに、このたびの学会大会では「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究への期待」というテーマを掲げ、高齢社会をにらんだレジャー・レクリエーションの「研究と教育」のあり方を探るため、以下の講演およびパネルディスカッションを開催する。

### 2. 構成・展開

まず特別講演として、小田切毅一奈良女子大学教授から「レジャー・レクリエーションの史的変遷」と題し、講演をいただく。パネルディスカッションは「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」というテーマで、最初に、石井允立教大学教授に問題提起をしていただく。次に、大堀孝雄東海大学教授から「セラピューティックレクリエーションに寄せる期待」と題し、事例を紹介していただき、我が国の諸分野への応用可能性についてお話いただく。

次に、鈴木秀雄関東学院大学教授から「介護福祉とレジャー・レクリエーション」と題し、我が国における介護福祉分野においてレジャー・レクリエーションがどのような貢献をすることができるか、現状を踏まえて展望していただく。最後に、武庫川女子大学吉田圭一教授から、「我が国におけるレジャー・レクリエーション専門家育成の課題」と題し、高齢社会のレジャー・レクリエーション分野の人材育成システムの現状と課題をお話しいただく。

各々のスピーチをいただいた上で、石井教授にもパネリストとして加わっていただき、これからの高齢社会におけるレジャー・レクリエーション「研究と教育」のあり方について全体での議論に入る。

特別講演の進行およびパネルディスカッションの司会は、下村彰男東京大学大学院助教授が担当する。